

高等教育機関における発達障害学生に対するピアサポート (1)

自閉症スペクトラム障害学生が抱える支援ニーズに焦点を当てて

○永瀬 開

(山口県立大学社会福祉学部)

KEY WORDS: 高等教育機関 ピアサポート 自閉症スペクトラム障害

【問題と目的】

近年、高等教育機関における発達障害学生が増加するのに伴い発達障害学生をいかに支援していくのかということが課題となっている(佐藤・徳永, 2006)。発達障害学生の抱える特有のニーズを把握し、支援を行いうる存在として、同じ高等教育機関で学ぶ障害のない学生によるピアサポートが関心を集めている(Garrider & Iarocci, 2014)。その一方で、発達障害学生が大学生活において抱える全ての支援ニーズに対してピアサポートを行うことは難しい。なぜなら、発達障害学生に対してピアサポートを行うことには、支援を実施する学生に対して一定の抵抗感が生じることが考えられるためである(Neville & White, 2011)。

この点をふまえ、本研究では発達障害の中でも自閉症スペクトラム障害(ASD)に焦点を当て、ASD学生が抱える支援ニーズに対して、大学生がどのようなニーズであればピアサポートを行うことができ、どのようなニーズであればピアサポートを行うことが難しいと考えているのかを明らかにすることを目的とする。

【方法】

対象者: 四年制大学に通う51名(男性15名、女性36名)であった。対象者の平均年齢は20.35歳($SD=0.74$; 年齢幅19-23歳)であった。なお、本研究は山口県立大学生命倫理委員会の承認を経て行われた(承認番号28-29)。

質問紙: 自閉症スペクトラム障害学生の支援ニーズに関するサポート項目については、「ASD困り感質問紙」(山本・高橋, 2009; 高橋, 2013)に記載されている支援ニーズをもとに作成した。具体的には、各項目について、「あなたは以下の内容で困っている同級生をどの程度助ける、または手伝うことができそうですか?」という教示を行い、4「かなり助ける(手伝う)ことができる」、3「かなり助ける(手伝う)ことができる」、2「あまり助ける(手伝う)ことができない」、1「全く助ける(手伝う)ことができない」の4件法で回答を求めた。

手続き: それぞれの質問項目について、支援できると回答した人数(質問項目において4、もしくは3と回答した人数)と支援することが難しいと回答した人数(質問項目において2、もしくは1と回答した人数)を算出し、各項目で支援できると回答した人数について、二項検定を実施した。

【結果】

分析の結果、9つの項目について、支援できると回答した人数がチャンスレベルと比べて有意に多いことが明らかになった(表1)。そして、1つの項目について、支援することが難しいと回答した人数が有意にチャンスレベルと比べて多いことが明らかになった(表1)。

【考察】

分析の結果、「授業や行事で「グループになってください。」と言われて困っている」、「雑談などの取り留めのない話をするのが苦手で困っている」、「初対面の人とどうやって話したらいいかわからずに困っている」、「次に何をするのかという具体的な指示がないと困ってしまう」、「友達がいなくて寂しくて困っている」、「進学やクラス替えのとき新しい友人を作るのが苦手で困っている」、「グループ活動で居心地が悪くて困っている」、「孤立していると感じて困っている」、「人と話しているとき、自分がいつ話せばいいかわからずに困ってしまう」の9つの項目について、大学生はピアサポートを行うことができると考えていることが明らかになった。「次に何をするのかという具体的な指示がないと困ってしまう」以外の8つのニーズについては、丹治・野呂(2014)でも指摘されていた「対人関係上の困難」に該当すると考えられる。これらの「対人関係上の困難」はすべての大学生にとって身近な問題であり(日本学生支援機構, 2016)、回答した大学生自身に「対人関係上の困難」の支援ニーズを有する学生を支援した経験が蓄積されていたことが考えられる。そのため、対人関係上の困難について支援できると回答したと考えられる。また「次に何をするのかという具体的な指示がないと困ってしまう」については、具体的な支援の方法が大学生にイメージしやすかったことが、支援を行うことができるという回答につながったと考えられる。

一方、「生活のリズムを乱されると困ってしまう」の1項目については、大学生はピアサポートを行うことが難しいと考えていることが明らかになった。この結果の背景には、生活リズムを乱す大学外の要因を把握することは大学生にとっても負担が大きいことがあると考えられる。

付記: この研究は山口県立大学研究創作活動助成(基盤研究型)による。

(NAGASE Kai)

表1. 自閉症スペクトラム障害学生の支援ニーズに対する大学生のピアサポートに関する回答の概要

質問項目	行うことができると回答した人数	行うことが困難だと回答した人数	有意確率
1. 授業や行事で「グループになってください。」と言われて困っている	42 (82.4%)	9 (17.6%)	$p < 0.01$
2. 雑談などの取り留めのない話をするのが苦手で困っている	39 (76.5%)	12 (32.5%)	$p < 0.01$
3. 初対面の人とどうやって話したらいいかわからずに困っている	41 (80.4%)	10 (19.6%)	$p < 0.01$
6. 次に何をするのかという具体的な指示がないと困ってしまう	45 (88.2%)	6 (11.8%)	$p < 0.01$
8. 友達がいなくて寂しくて困っている	37 (72.5%)	14 (27.5%)	$p < 0.01$
9. 生活のリズムを乱されると困ってしまう	16 (31.4%)	35 (68.6%)	$p < 0.05$
11. 進学やクラス替えのとき新しい友人を作るのが苦手で困っている	38 (74.5%)	13 (25.5%)	$p < 0.01$
12. グループ活動で居心地が悪くて困っている	34 (66.7%)	17 (33.3%)	$p < 0.05$
19. 孤立していると感じて困っている	34 (66.7%)	17 (33.3%)	$p < 0.05$
20. 人と話しているとき、自分がいつ話せばいいかわからずに困ってしまう	36 (70.6%)	15 (29.4%)	$p < 0.01$

注: 質問項目の右に記載した数字は質問項目番号を示す